



府中国際交流サロン
FUCHU INTERNATIONAL SALON

くろするろ〜ど

ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む
にほんじん がいくじん なかよ たすあ 日本人と外国人が、仲良く助け合っ
たの せいかつ ねが かつどう 楽しく生活していくことを願って、活動を
つづ 続けています。

2019/6月号

かいほうし
会報誌

★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★★



★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★★

〜サロン月間カレンダー6月〜

「今期サロン教授法研修会が始まる」

■文化交流活動

6月7日(金) 午前10時〜12時

「生け花教室」15名・花代500円

場所：サロン第1会議室

*申し込みは6月6日(木) 正午まで

6月14日(金) 午前10時〜12時

「ゆかた着付け教室」10名・参加費200円

場所：サロン託児室

6月21日(金) 午前10時〜12時

「書道教室」5人以上で実施。参加費100円

場所：サロン第1会議室

*申し込みは6月20日(木) 正午まで

6月26日(水) 午後2時〜3時半

「盆踊り教室」無料

場所：サロン託児室

★以上の対象はサロン学習者とボランティア

■定例勉強会「音声講習会・基礎編」

〜もう一度音声を復習しよう!〜

6月8日(土) 午後2時〜4時

講師：中村則子先生(早稲田大非常勤講師)

場所：サロン第2会議室

対象：ボランティアと学習者

■「家族で学ぶ防災」講習会

6月15日(土) 午後2時〜4時

場所：サロン第2会議室(学習会の部屋)

対象：サロン学習者とその家族・友人

★詳しいことは「みんなの広場」をご覧ください。

昨年1年間休止したサロン教授法研修会の初級Iの講座(7月16日までの毎火曜午後/全10回)が、去る5月14日から始まりました。

サロンでのボランティア活動を目指す市民の方々24名に加え、すでに活動されているボランティア4名、合計28名が受講を申し込みました。

講師は、これまでの柏崎雅世先生に代わり、今回は山田しげみ先生に担当していただくことになりました。山田先生は、長年、東京外大の留学生センターで教鞭を執られ、現在は東京外大オープンアカデミーで日本語教師養成の教育に携わっていらっしゃいます。

第1回目は受講者の皆さん全員が出席され、5つのグループに分かれたのち、最初にそれぞれが受講動機や趣味を自己紹介されました。自動車メーカーなど大手企業がある群馬県大泉町は、'90年の入管法改正直後、働き場を求めて日系ブラジル人がどっと押し寄せ、外国人集住都市として注目を集めた所ですが、そこでブラジル人児童の日本語支援を経験された方、定年を迎え、これまで迷惑をかけた分、社会に恩返ししたいという方、日本語をもう一度見つけ直したいという方など、動機はそれぞれ異なるものの、皆さん、ボランティア活動への熱い思いを語られました。山田先生の講義にも真剣に耳を傾け、受講者皆さんの、秋からのデビューに向けての並々ならぬ意欲が伝わってくる第1回目の講座でした。(研修部会)

世界の文化

「大國魂神社くらやみ祭取材日記」

サロンで学習し、現在府中市経済観光課で外国人観光客おもてなし職員として活躍しているアニカ・ゴデックさん（ポーランド）は、「くらやみ祭」でも府中の観光振興に貢献しました。4日間にわたる奮闘ぶりをお聞きし、アニカさんの取材日記としてまとめました。

5月3日（金）

朝9時からお昼まで、多摩センターにて「くらやみ祭」のチラシを配り、外国人8家族を含む多くの方々に「くらやみ祭」を説明しました。

午後は府中に戻り、けやき並木を歩き外国人に逢うと「くらやみ祭」のチラシを渡し説明しました。

午後6時から「雛子の競演」。8時から「競馬式」の写真の撮りでしたが、暗くなり、フラッシュを焚くのは禁止されているうえ、馬の走りが早いので、フォーカス（焦点）を合わせるのが難しく、良い写真は撮れませんでした。

5月4日（土）

午後12時半から「万燈大会」が2時間位行われ、今年から子供たちの万燈もあり、とてもかわいかったです。

子供神輿の午後2時過ぎ、急に雹が降ってきて、その後雨になり残念ながら「太鼓の饗宴」は中止になりましたが、「山車行列」の頃には晴れたので、予定通り行われました。

5月5日（日）

12時から「道清めの儀」、「太鼓送り込み」などの行事があったので、外国人にそれがどんな意味をもっているのかなどを説明しました。

夕方6時から「神輿渡御」という「くらやみ祭」の中で最も大きい行事が始まりました。太鼓が打ち

鳴らされ、多くの担ぎ手によって、お神輿8基が神社から出発して、それぞれのルートを通って御旅所といわれるところまで行きました。

御旅所は旧甲州街道と府中街道の交差点のところにあり、そこでお神輿8基が一晩過ごす場所です。

そこに行った時、Jcomのテレビにインタビューされたので、翌日そのテレビを見た何人もの市民の方々から、「テレビで見たわよ」と声をかけられました。

5月6日（月）

「くらやみ祭」の最終日は、昨夜お神輿を担ぎ入れた御旅所に朝4時に行きました。ここからまたそれぞれのルートを通って神社に戻っていくのを、「神輿還御」と言います。

六の宮神輿は、神社に着いて参道のところから担ぎ手が男性から全員女性に変わりました。ほんの短い距離ですが、女性だけで1200kgもあるお神輿を40人位で担ぐのですから大変です。私も担ぎ手の一人となりましたが、背が高いため、日本人の女性と担ぐと高さが合わず、一番前を担ぐように言われました。それでも1、2分担いだけで肩にマメが出来て、後でそこが青あざになりました。

何であんなに重いのだろうというのが感想です。掛け声は「ホイサ」「ホイサ」というものですが、「重いさ」「重いさ」と言っているように聞こえました。でも得難い経験をさせてもらいました。

また、太鼓もたたかせてもらったのですが、太鼓のバチは斜めに太鼓に当たってはいけないとのことで、バチを握っている指の付け根の関節がバチよりも先に太鼓にあたるので、皮膚が少しすりむけました。

4日間の取材でしたが、すっかり楽しませていただきました。（アニカ・ゴデックさん談/文責・堤林）



女性お神輿をかつぐアニカさん

わたし
私のふるさと ~14~

こころ まつもと
「心のふるさと松本」

げつようごご かよう ゆ み こ
月曜午後ボランティア 萱生由美子

通勤族の娘だった私は、千葉で生まれ7才から18才までを、東京→伊勢崎（群馬）→横浜→新潟→松本で過ごしました。どこの土地にも夫々の思い出がありますが、中でも中3から高校卒業までの思春期を過ごした松本は、懐かしい思い出と共に私の心のふるさとになりました。

中3の10月に松本に転校。自宅は松本城の近く、お堀の一本北側の道沿いで、北馬場という所がありました。その家の2階の南側の窓からは松本城の天守閣が見え、東側からは美ヶ原と霧ヶ峰、西側からは遠く北アルプスの常念岳、槍ヶ岳、白馬岳が見えました（何だか観光案内みたいですね！）

高校では出来たばかりの硬式テニス部に入った私は、放課後自転車で街はずれの県営コートへ通いました。真っ黒に日焼けしながらもひたすらテニスボールを追いかけていました。

テニスの練習が無い時は、街の中心を流れる女鳥羽（めとば）川の近くにあった本とレコードの「鶴林（かくりん）堂」を覗き、時々行った封切館の「中劇」で見た映画に心が躍りました。

松本の冬は寒さが厳しく、当時は松本城のお堀も全部凍る程でした。でも寒い中、受験勉強をサボって友達と行った美鈴湖でのスケートや、八方尾根でのスキーは懐かしい。クラスメートと行った近くの城山（じょうやま）公園からは、一年の大半は雪を抱いた北アルプスの山々が見えました。こういう環境で育てば、もう、気分はほとんど信州人（長野県人）です。

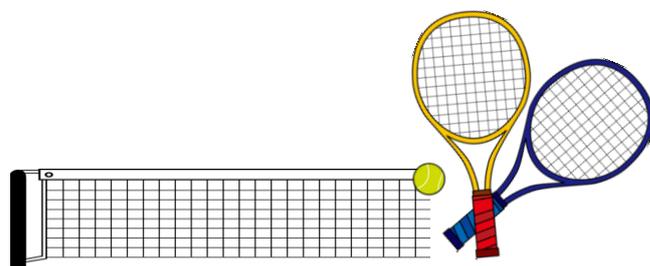
さて、当サロンのボランティアにも、私の知っているだけで3人の信州人がいます。もちろん皆さんは長野県の県歌である「信濃の国」が歌えるに違いありません。気持ちだけは信州人の私も、もちろん歌える！「やっぱり信州人か。だから理屈っぽいんだ・・・」。えっ！！誰ですか？ そんなこと言っているのは・・・。



きた はいけい た まつもとじょう
北アルプスを背景にそびえ立つ松本城



まつもとしない なが め とばがわ
松本市内を流れる女鳥羽川





「ナポリのカンツオーネを歌おう」

水曜午後ボランティア 末田圭治

「ありがとう」

岡林秀雄(アメリカ)

去る5月2日に日本語のべんきょうで長い間お世話になった西原先生がおなくなりになりました。最後の授業になってしまいましたが、4月26日にサロンでべんきょうをしていただいた時にはとてもお元気でした。体調があまりよくないと言う話はいかがでしたが、こんなにはやくいかれてしまうとは思っていませんでした。とてもざんねんです。

おもいかえせば先生には日本語能力試験のごしどういただき、こんどの7月に受験することになっていました。ガンバリナサイとげきれいをいただいて、私も合格めざしよい結果をえて先生におつたえ出来る事を楽しみにしておりましたが、それができなくなりとてもざんねんです。先生、試験に合格出来るように、かげからおうえんして下さい。お願いします。

長い間お世話になりました。ありがとうございました。

「ナポリのカンツオーネを歌おう」が4月2日(火)ル・シーニュ5階スタジオで行われました。

ナポリ出身で世界一流のピアニストのアルベルトさん(学習者)、ナポリ国立サンカルロ歌劇場で活躍していたソプラノ歌手の角南有紀さん、イタリア語の先生、この超豪華で贅沢な3人によるカンツオーネ(イタリアのナポリ地方の民謡)の3曲(オーソレミオ、帰れソレントへ、サンタルチア)の歌のご指導を頂きました。本当に夢のようなひと時でした。

以前読んだ投稿に”悩みを抱え病に伏していたとき友が訪ねて「オーソレミオ」を歌い激励してくれて前に進めた”話があり、いつか、その歌を歌いたいという長年の思いが今回参加した動機でした。

昔は「この紋所が目に入らぬか、恐れ見よ！」とか、「おー、それ見ろ！」が浮かびましたが、当然、全然違います。オーは、感嘆詞ではなく「オーソレミオ」は、「私の太陽」。嵐の後の太陽が照らす日は美しい。でも私にはもっと美しい太陽がある、それは君の中にある。(主旨)

前述の病に伏した人は嵐の中かも知れない。でもその君の中に太陽はある。その太陽は私には見える。君の中に見える私の太陽よ、もう一度、病に負けないで輝いてくれ。必ずそうなる！君は私の太陽だから…。歌に託した思いが、病の人に通じたのでしよう。

ある音楽家の言葉に「音楽には“上手な演奏”と“良い演奏”があり、高い技量を持つ人であれば、上手な演奏はできるでしょう。しかし、良い演奏は、奏者の心と聴衆の心が共鳴したときに生まれる特別な瞬間です。そのとき、人は音楽に生きる力を見いだすのです」と。歌も共鳴して生きる力を見いだし、ボランティアと学習者の会話にも共鳴があれば生きる力を見いだすでしょう。そう感じているボランティアや学習者の方もいると思います。それを今後も幾重にも積み重ねていきたいものです。



わたし 私の☆つがやき

「武蔵府中を万葉散策」その1

きんようよる わ だ やすひろ
金曜夜ボランティア 和田泰弘

あたらしいげんごうの「令和」の出典が『万葉集』というので、巷の書店では『万葉集』関連の本の売れ行きが伸びているとのこと、『万葉集』に勤しんだ輩としては嬉しい限りです。先月号の「日本語おちぼひろい」で大國魂神社正面にある万葉歌碑を紹介しましたが、府中市にはほかにも『万葉集』の世界を体験できるスポットがあります。新緑が清々しいこの季節、「古」の息吹を体感しながらの万葉散策はいかがでしょう。この欄で、『万葉集』にゆかりのある武蔵府中のスポットをご紹介します。

大國魂神社の境内に、かつて府中がその中心であった武蔵国府の歴史や文化を紹介する施設「ふるさと府中歴史館」（旧図書館）があります。1階の国府資料展示室には、奈良時代の武蔵国府の風景を大型CGによって再現する「国府百景バーチャルツーリング」があり、その一角に『万葉集』のコーナーが設けられています。武蔵国、相模国などの東歌12首が詠まれ（現代語訳と解説のナレーション付き）、東国のイメージ映像とともに紹介されます。「恋しけば袖も振らむを 武蔵野のうけらが花の色に出なゆめ」…人には知られたくない密やかな恋、おととさきもりとられた妻の嘆き、占いに想い人の名が出てきてしまった驚きなどなど、歌に聴き入っていると様々なドラマが頭の中を駆け巡ります。そして、いつしか時空を超え、気分は暫し万葉人に。

バーチャル体験したあとは、神社の鬱蒼とした木々の緑を縫って射す木洩れ日が、タイムスリップした「奈良」から「令和」の現実に引き戻してくれることでしょう。



みな がくしゅうしゃしょうかい 皆さんよろしく◇学習者紹介

スピーナル アブドケリムさん(中国ウイグル)



えいがせいさく ゆめ 「映画制作が夢です」

2017年4月中国新疆ウイグル自治区ウルムチ市から来日しました。

大学院で映画制作を勉強するため、この2年間は日本語学校で日本語を勉強しました。この春、東京芸大の修士課程の研究生となることが決まりました。一年間修士課程の映画専攻で授業を受け、来春試験に合格すれば、修士課程に正式に入学できます。

新疆大学ニュースメディア学部アナウンサー専攻で勉強し、中国中学教師資格や放送局アナウンサー司会資格などを得ました。学生時代からアルバイトでイベントの司会などをしていましたが、日本ではユニクロでアルバイトをしています。

趣味はケーキ作り、お料理などです。日本の食べ物はお寿司やうどんが好きですが、ウイグルの好きなお料理は「ポロ」といい、羊の肉と野菜を炒め、その上にご飯と卵、レーズンを載せたものだそうです。

今までも短編映画をいくつか作りましたが、大学院で学んでから、本格的な映画をつくるのが夢です。産後鬱のような問題をとりあげた短編「欲求」では企画、制作、俳優もご自分でやり大活躍でした。このような、広い意味での社会問題などをテーマにした映画作りは、子供のころから両親に、社会の役に立つことをするようにと言われ育ったのが、影響しているのではないかとのことです。（堤 林）

「アルベルトのピアノコンサート」

すい きんよう ご ご つつみぼやしほつね
水・金曜午後ボランティア 堤 林 初音

イタリアの学習者アルベルト・ピッツォさんのピアノコンサートが4月21日（日）世田谷区祖師谷のサロン・フォンタナで行われました。

2018年に外国人として唯一のヤマハミュージックエンタテインメントアーティストとして契約し、3月末より日本の中4か所のコンサートツアーの最後として、世田谷で行われました。

有名なピアニストだとは聞いていましたが、想像以上の熱演で、サロンから聞きに行った8名のボランティアの人達も、一緒に行った私の主人もとても感動していました。

アルベルト・ピッツォさんが編曲したクラシックをはじめ、多くのオリジナル作品、「ゴッドファーザー」などの映画音楽など15曲にアンコール2曲と一人で演奏し、私たちに感動を与えてくれました。そのエネルギッシュな演奏に時間も忘れるほどでした。

そんな熱演でさぞお疲れかと思いましたが、翌朝サロンの学習会に参加していたので驚きました。

そこで、私は彼に質問しました。

「昨夜はお疲れさまでした。アルベルト、あなたの指を見せて。」

彼は、両手を広げて私に指を見せてくれました。

「私の指10本だけど、アルベルトは指が20本あるのかと思った。」

そしてその意味がわかったので、アルベルトさんは「ありがとう」と言っていました。それほど彼の演奏はすごかったのです。とても私と同じ指10本だとは思えない演奏でした。

有名なイタリアのピアニストがこんなに身近にいてくれ、演奏を楽しませてくれるのですから、チャンスがあれば、皆さんもコンサートにいらしてみてください。オリジナルの曲も素晴らしいですし、演奏もとても素晴らしいです。

かぞく まな ぼうさい こうしゅうかい あんない
「家族で学ぶ防災」講習会のご案内

いつ来てもおかしくない災害に備え、防災についての知識を学んでいただく講演会を生活情報支援部会主催により催します。

テーマは「家族で学ぶ防災」。学習者と、その家族・友人を主な対象に、災害の前と後の対応の仕方などを一緒に話し合います。もちろん、ボランティアの方々の参加も大歓迎です。申し込みは、各曜日の日本語学習会で配布する所定の用紙に記入していただきます。たくさんの方々の参加をお待ちしています。

日時 : 6月15日（土）午後2時～4時

場所 : サロン第2会議室（学習会の部屋）

対象 : 学習者とその家族・友人、ボランティア

申込み : 学習会で配布する所定の用紙に記入

* 詳細はサロン事務局か生活情報支援部会まで。
(生活情報支援部会)



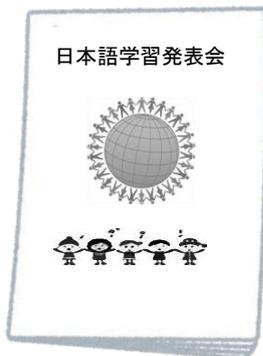
「日本語学習発表会冊子」

3月9日に日本語学習発表会が行われましたが、そこで発表された内容をまとめた冊子が完成しました。

参加された14名は、外国人ならではの視点による日本の社会や文化への洞察、敬愛する母国詩人への思い、故郷への愛着など、自ら考えたテーマを身につけた日本語で一生懸命にスピーチをしてくれました。

それらをまとめた冊子を手にとってもう一度発表者、司会の方々の文章に触れ、ぜひ、それぞれの学習成果を鑑賞していただければと思います。また、日頃の日本語学習会での教材としても使っただけなら幸いです。なお、冊子はサロン事務局に置いてありますので、自由にお持ちください。

(編集部)



「今年度の東京外大連携プロジェクト」

昨年度の「東京外国語大学との連携プロジェクト」は、「外国人のための公共施設ガイドブック」として纏められました。サロンの勉強会などで配布し、そのガイドブックを見ながら学習者の最寄りの文化センターなどの場所を確認していました。

今年度は、6月21日(金)に「世界の災害対応から学ぶ」のテーマで行われる学生たちの発表から始まります。サロンに見学に来た学生たち16名が発表します。

9月頃から来年1月にかけては、外国人のための日本の防災についてサロンと連携しながらまとめる予定とのことです。

日本や世界の未来を担う大学生の自主性を引き出し、課題に生き生きと取り組めるようサロンとしてもサポートしていきたいと思っております。発表は下記の要領で行いますので、たくさんのボランティアの方々の参加をお待ちしています。

「東京外国語大学との交流会」

～ 外大に行って発表を聴きましょう ～

日時 : 6月21日(金) 午後12時10分～2時

テーマ : 世界の災害対応から学ぶ

集合 : 午前11時45分 東京外国語大学正門前

参加 : 希望者は自由に参加できます。

(編集部)



「今期の会計と監査が決まりました」

～編集後記～

5月8日（水）の実行委員会において、未定だった会計担当1名と監査2名が選任されました。

会計には、金曜夜のボランティアの可児春樹さんが委員全員の賛同を得て選任されました。監査には、金曜夜のボランティアの中村万里子さんと伊野昌子さんがそれぞれ委員全員の賛同を得て選任されました。これまで監査を担当していただいた松木義信さん（金曜夜ボランティア）、池谷清子さん（金曜夜ボランティア）は退任されますが、在任期間中の活動に深く感謝いたします。お疲れさまでした。

また、5月号で実行委員のお名前を掲載しましたが、水曜夜の日本語学習部会副部会長の長谷川愛子さんのお名前が漏れていました。あらためてここでご紹介するとともに、お詫び申し上げます。

（編集部）

4月27日から5月6日までの連休、みなさんはどのようにお過ごしでしたでしょうか。

その間サロンの日本語学習会もお休みで、私としては暇を持て余したほどです。

そこで普段出来ない引き出しの中の整理をしました。古い保険の書類や、古い年賀状などは個人情報関係で、雑紙に出すわけにもいかず、シュレダーもないので、やぶいて緑の袋に入れたのですが、やっかいなのは、ホッチキスで留めてあるもの、古いカレンダーなど金具やプラスチックのものがついていて燃やせるゴミに出せないで手間がかかりました。

高齢者は、いつ何があるかわからないのですから、普段からもっと整理整頓をしなくてはいけないと、反省したものの、ほんの一部をやっただけで、家の中にはまだまだ整理しなくてはならないものが一杯です。

（堤 林）

「西原珠四さんが逝去されました」

長年にわたり、府中国際交流サロンで活動されてきたボランティアの西原珠四さんが、さる5月2日に76歳でお亡くなりになりました。

西原さんは2004年11月からサロンにボランティアとして参加され、足掛け14年以上にわたり日本語支援の活動を続けてこられました。

中国の吉林大学で日本語教育をされた経験を基にサロンでも多くの学習者に日本語を教える傍ら、副会長を務めたり、研修部会で活動したりと、サロンに多大な貢献を残されました。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

（編集部）



【編集】 編集長：和田泰弘
会報部会：堤 林、和田、岩城、末田

【事務局】 電話：042-352-4178
E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp
サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>